

日経平均株価

5万0491円87銭

▼536円55銭(前日比)

T O P I X

3362.56

▼35.65(前日比)

株式市場新聞

www.marketpress.jp

2025

12/8

月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



Google 関連を狙う

AIで一躍トップに躍り出る

11月18日にアルファベット傘下のGoogleが発表した最新AI「Gemini3」の登場によって独走状態と思われていた「OpenAI」の成長性に疑念が生じている。NY市場ではアルファベット株が急伸する一方でOpenAIで恩恵を受けていたエヌビディア株が急落し、多額の出資を行っていたソフトバンクグループ(9984)も大幅な調整を余儀なくされた。AI関連銘柄が選別されていくなかで、Googleに関連する銘柄に注目したい。

三井金やNEC、村田製など

別なくひとつの脳で学習し



GoogleのAIが急成長

GoogleがAI一頭に立ったのは10年以上の開発に費やしてきた自社チップTPU(Tensor Processing Unit)の機能が大きく向上し、これを「Gemini3」に活用しているからだと言われている。他のAIと異なり、音声、動画を区別なくひたすら学習し、無駄が少ないことから、エヌビディアが開発する高コストなチップが不要になると見られている。かつてスマートフォンの登場時はアップルのiPhoneが独占だったが、そこからGoogleがAndroidのOSを成熟させて、市場が活性化してきた。「Gemini」の躍進で、AIも競争により普及が加速す

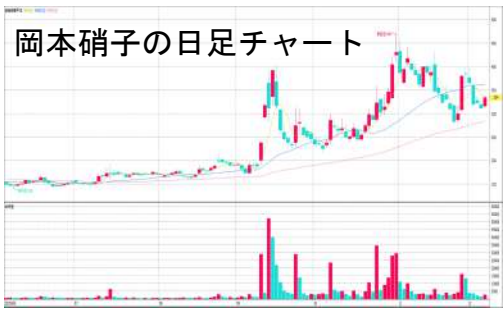
日経平均の日足チャート



ることになる。「Gemini3」、「OpenAI」のどちらが勝者になっても恩恵を享受するのが高性能チップを載せる基板向け(キヤリア付極薄銅箔)で世界シェア約90%を誇る三井金属

(5706)。Googleは自社専用の海底ケーブル網を構築しており、そのパートナーはNEC(6701)。Googleと共同で「Coral Accelerator Module」という世界最小クラスのAIモジュールを開発している村田製作所(6981)やGoogleと資本業務提携しているnote(5243)が注目される。

岡本硝子の日足チャート



27日、岡本硝子（7746）が大幅続伸、ストップ高まで買われた。ガラス偏光子製造設備の設備投資について延期を含めて検討中であることを発表しているが、製造設備の発注したと発表した。フアラデー回転子の供給増加が見込まれ、同社への偏光子の発注も増加していることから、偏光子の生産能力増強の設備投資を予定通り実施し、生産能力の増強に必

岡本硝子ストップ高

ガラス偏光子製造設備発注

要な設備の発注をした。しかしながら、設備の納入が26年11月頃になるため、それまでは、現行設備での生産増（6割強）で需要増に対応する予定。

山口FG自社株買い

間、11月27日、26年10月30日、

スカパJ SAT 格上げ

スカパーJ SATホールディングス（9412）が急伸。26日付でみずほ証

山口ファイナ
ンシャルグル
ープ（841
8）が大幅に
6日続伸。自
己株式取得枠
の設定を発表
した。上限1
00万株（発
行済株式総数
に対する割合
4・73%）
または150
億円で取得期
間は11月27日、
26年10月30日、

タカショー赤字拡大

タカショー
（7590）が
大幅反落。26
年11月の第3
四半期累計決算
は、最終損益で
4600万円の
赤字（前年同期2億
7500万円の赤字）
と赤字が拡大したこ
とが嫌気された。税
負担が増加したこと
が要因としている。

公開価格10%上回る

券が投資判断「買い」
を継続、目標株価を
1500円から22
00円に引き上げた。
防衛・非防衛ともに
快調で来期以降の利
益成長への期待をし
ている。

ヒューマンメイドの初値

HUMANMAD
E（456A）が東証
グロース市場に新規
上場、公開価格31
30円を9・9%上
回る3440円で初
値が生まれた。紳士
服、婦人服、子供服
など各種衣料繊維製
品と装飾雑貨の製造、
販売ほかを行う。

個人投資家向けIRセミナーin大阪



新田ぜうちん
Connect and Create

（4977）

2026年2月14日（土）参加費無料

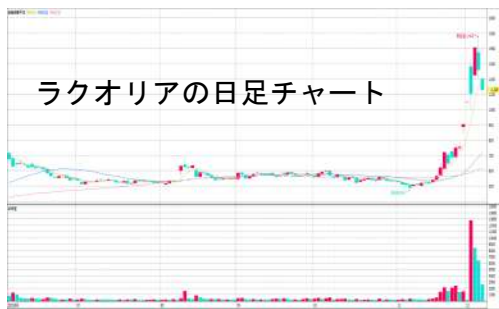
株式評論家 高野恭壽氏の株式講演会

参加申し込みは info@marketpress.jp から！

主催：株式市場新聞社 場所：大阪産業創造館
6階会議室（堺筋本町駅[出口1]徒歩3分）
13時開場、13時30分開演



ラクオリアの日足チャート



2つの標的を追加すること、アステラスから一時金4億円を受け取るが、さらに、開発、申請・承認、販売などの進捗

ラクオリアがストップ高 アステラスと新規標的を追加

週末、ラクオリア（8日）はストップ高（579円）で、アステラス（4日）はストップ高（1035円）と、共同研究について新たに

に比べて最大で150億円を上回るマイルストーンを受け取る。

ユニチカは10連騰

ユニチカ（3103）が10連騰、26年3月期は連結営業利益で前期比28・2%増の75億円を見込むことが引き続き好感された。急騰したとはいえず400円処の株価には値頃感もあるようだ。

データセク乱高下

データセクション（3905）が乱高下。26年3月期の連結業績予想について、

売上高を164億1900万円から348億1000万円（前期比11・8倍）へ上方修正する一方、営業利益を31億7300万円から5億9000万円（前期4億9600万円の赤字）に大幅に下方修正した。GPUサーバー追加受注でプロジェクト売上が拡大するが、稼働後ずれと投資負担が利益を下押しする。

中越パは増配と中計評価

中越パルプ工業（3877）が3連騰。26年3月期の期末

12月第1週の動意銘柄

銀行総じて買われる

次回日銀会合で利上げ観測

週明け1日、三菱UFJフィナンシャル・グループ（8306）や三井住友フィナンシャルグループ（8316）を筆頭とするメガバンク

やりそなホールディングス（8308）など銀行株が総じて買われた。植田日銀総裁が「利上げの是非について適切に判断したい」と講演で

注目はFOMC後のマーケット

先週の東京株式市場は続伸し、TOPIXが最高値を更新しました。また、日経平均も11月半ば以降に上値が押さえこまれた25日線を突破。このことで、11月4日の日経平均最高値からの調整局面を脱したのと思われます。懸念材料は日本の長期債が売り込まれていることです。10年債利回りは1・9%台へと上昇し、2008年以来の水準となりました。来週18～19日の日銀会合での利上げ確率が高まりました。

さて、今週は9日～10日に米連邦公開市場委員会（FOMC）が開催されます。ほぼ0・25%の利下げが行われると思われませんが、利下げ期待で上げてきたNY株式が材料出尽くしになるのかどうか注目点でしょう。また、その場合にドル円が今の水準を維持できるのかどうか。円高進行となるならば内需の輸入関連銘柄に資金が流れることでしょう。

日々勇太郎



公開価格69%上回る

BRANUの初値

BRANU（460A）が東証グロース市場に新規上場、公開価格980円を68・9%上回る1655円で初値が生まれた。同社は中小建設業者に特化した各種ITサービスを提供などを行う。

配当を40円から50円（前年同期35円）へ引き上げたことと好感するとともに、

同時に発表した「中期経営計画2030基本方針」が評価された。

語ったことを受けて、次回の日銀金融政策決定会合での利上げ観測が高まり、1ドル155円50銭台までの円高とともに銀行も買われた。

レナサイエンス稀薄化

レナサイエンス（4889）が急反落。第三者割当による新

株と新株予約権の発行プログラムを発表したことで稀薄化が懸念された。米機関投資家・マネジメンタル・マネジメンが運用するCVCインベストメントに26年3月までに新株と新株予約権をそれぞれ4回ずつ発行、新株

ファナック急伸し新値

エヌビディアとフィジカルAI

2日、ファナック（6954）が急伸、年初来高値を更新した。エヌビディアと協業し、人工知能（AI）技術により自律的に作業を行う産業用ロボットの「フィジカルAI」を推進すると発表された。ア

大黒屋ストッパ安
大黒屋ホールディングス（6993）が

ストップ安。26年3月期第2四半期（7～9月）決算での最終赤字縮小や「AIによる自動買取オフアー」などを材料に上値追いが続いたようだが、急ピッチな上昇による警戒から、上値追いが止まると短期的な利益確

定売りから値を崩す展開になった。
ガイシはみずほ格上げ
日本ガイシ（5333）が大幅反発、年初来高値を更新した。1日付でみずほ証券が投資判断を「中立」から「買い」へ、目標株価を2400円から3

600円へ大幅に引き上げたことが買い手掛かりになった。27年3月期の連結営業利益は1000億円大台乗せ（25年3月期実績812億4100万円）の可能性を指摘しており、26年3月期予想は上振れが期待された。

治療薬の併用療法が有効ながん患者の選択方法、レチノイドとがん治療薬との併用医薬に関するもの。
UACJは古川電売却
UACJ（5741）が急反落。第2位株主の古河電工（5801）が保有株の一部を売却すると発表した。ブロックトレードで1300万株が売却され、古河電の保有比率は14.34%から7.1%に低下。追加の売却も想定されるようだ。

プリケーションでエヌビディアの最先端のロボット向け組み込みコンピュータやAIインフラを使用してロボティクス・シミュレーション・

SBG4日ぶり反発 OpenAI「コードレッド」宣言

3日、ソフトバンクグループ（9984）が4日ぶりに反発。OpenAIの競合であるグーグルの「GEMINI」がベンチマークスコアを記録し、推論テストでOpenAIの「GPT-5.1」の17.6%に対し45.1%と圧勝したことを受けてOpenAIのサム・アルトマンCEOが全社に対して「コードレッド」を宣言。リソー

スを性能改善へ全振りする決断を下したことを受けて、OpenAIの巻き返し期待が高まるなかで、多額の出資する同社へ見直し買いが入った。
PD大幅下方修正
ペプチドリム（4587）が大幅に3日続落。25年12月期の業績予想について、連結売上収益で490億円から180億円（前期466億7600万円）へ、営業損益で216億円の赤字から54億円の赤字（同211億1300万円の黒字）へ大幅に下方修正した。特定

の開発マイルストーン達成と新規提携が

日本新薬ストップ高

4日、日本新薬（4516）がストップ高。Capricor社が米国で開発中のCAP-1002について、デュシエンヌ型筋ジストロフィー患者を対象とした臨床第3相試験の肯定的なトップラインデータを発表した。米国で承認された場合、米国子会社のNSP

harmaが販売・販促活動を実施する予定で、早期上市と今後の収益貢献を期待した買いを集めた。
免疫生物利食いから投げ
免疫生物研究所（4570）が大幅に3日続落。11月21日に24年2月に製造販売承認を取得した体外診断用医薬品



ファナックの日足チャート

高野恭壽の
株式情報

家庭用、産業用、に役立つ、ロボット型AIがヒットした。また、フィジカルAIがヒト型

株式市場新聞の名物コーナーが復活！

8370円まで戻した。後、1万8200円で終えました。また、フィジカルAIがヒト型

内需系では日ハム

282)が高値から調整が続いていました。タイミンが近づくと思

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。

公式ホームページ

<https://marketpress.jp/kabu-takano/>

一気の上げで調整局面狙う

広く応用されること、で今後

先週の日経平均は4日に1000円以上の大幅高となり一気に5万1000円を超えました。半導体系などテック銘柄が戻り歩調を強めて、高値5万10028円まで戻しました。この水準は11月13日で下落が強まっていく直前で早くも日経平均は下落部分を埋めるところまで戻したことになります。

半導体系がほぼ1カ月の調整を終えて割高感が消えたとの判断が強まり、最も下落が目立っていたソフトバンクGが急回復し、3日の反発から更に上値を追い予想通り1万8000円を回復する1万

週末5日は調整売りが出ているですが、深押しはないとみています。来週には再び、調整局面を少しづつ買う作戦を続けること

高い成長を見込めるとしてその関連銘柄が急騰しました。有料購読サイトでフアナックを強くお勧めしましたが、まさに、同株が一気に人気を集めて700円高超えの6000円台に迫るところまで買われま

ロボテクス軒並み高

米大統領令発出報道が刺激

4日、フアナック(8954)やナブテス(6288)、安川電機(6506)などロボテクス銘柄が軒並み値を上げた。米

ナブテスコの日足チャート



政府はロボテクス分野に関する大統領令を来年発出するものとを検討している。米政治メディアのポリティコが報じた。NY市場でもアイロ

イビデンが3連騰

シンガポールGIC大量保有

週末5日、イビデン(4062)が3連騰。関東財務局に提出された大量保有報告書(5%ルール)でシンガポール政府投資公社のGICプライベート・リミテッドが5.07%保有していることが判明したことが思惑買いを誘った。

ウエルディ内部統制不備

ウエルディ(2901)がストップ安。関東財務局に提出した25年8

公開価格42%上回る

ファンデインの初値

月期の内部統制報告書で開示すべき重要な不備があり、財務報告に関する内部統制は有効でない旨を記載したと発表した。997円まで急伸したことから、反動の

ており、出遅れ感からヒーハイスト(6433)が連続ストップ高に買われた。

UMエレがストップ高

ユー・エム・シー・エレクトロニクス(615)がストップ高。連結子会社のUMC中国が中国の自動運転技術会社ZYTから、先進運転支援システム製品の統合型オールインワンセンサーのPCBA受注したと発表した。

TOPIX型に移行

高市政策関連の押し目買い

みの動きがみられる一方、企業業績は好調で景況悪化懸念はさほど強まっていない。

来年5月のFRB議長後任人事を控え、将来的な金融緩和期待が株価下

11月以降は米国でAI相場の騰勢に陰りがみられ、日経平均はボラタイルな動きを余儀なくされた。

ソフトバンクグループは10月29日の高値から11月25日の安値まで1カ月弱で1万3000円近く急落して

いる。同期間、日経平均の下落に対して1銘柄で値幅2500円以上、率では60%以上のマイナス寄与度である。

光世証券 エグゼクティブ・マネージャー
西川 雅博 氏

NT倍率は日経平均の高値とほぼ同時に15・8倍でピークアウトして現在は15・0倍だ。過去2年間の中心値は14倍水準であり、今後は徐々にTOPIX型相場に移行してさらに低下するとみている。個別株の投資判断には日経平均の乱高下に惑わされない冷静さが必要だろう。



今月は米国で利下げ期待、日本では利上げ観測が強まっている。正反對の動きだが、今のところ為替の反応は限定的だ。日米共に事前に市場との対話がなされており、サプラ

相場展望

イズ反応はなさそうだ。米国では景気・労働指標に若干弱含

個別では住友金属鉱山(5713)、三菱重工業(7011)、野村ホールディングス(8604)など。

利上げ観測を前に警戒が働くのは当然だろう。ただ、今回は過去2回の急落時に一気にV字回復した経験と高市新政権への大きな期待感があり、そうした大幅調整は避けられるとみている。

来春にむけてのメインシナリオは、賃上げ動向と物価対策の効果、成長戦略の具体策などを見極めながらのじり高相場だろう。高市政策関連銘柄の押し目買いが基本戦略だ。ショートポジションが積み上がれば意外高もあり得る。

購読会員募集中！！



デイトレ候補銘柄毎日配信！！



株式市場新聞

www.marketpress.jp

チャートから読む 騰落銘柄

THK (6481)



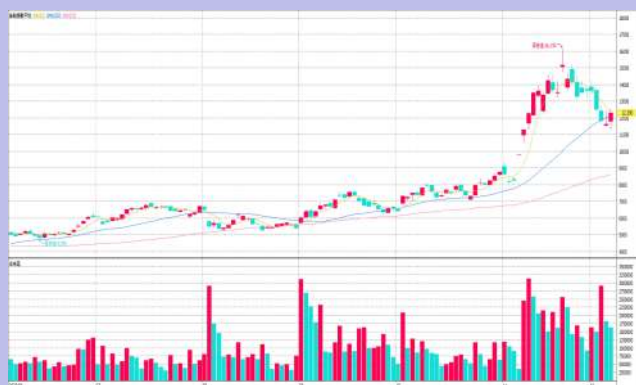
11月19日に3761円まで急落したあとに急速に戻す動きで12月4日には25日線と75日線を回復し、10月21日の最高値4464円奪回も視野に入る。工作機械の直動案内機器での高シェア評価。

村田製作所 (6981)



11月4日に付けた年初来高値3544円から、25日線割れまで下げスピード調整完了。5日線をフォローに出直る。日足陽転のあと上値志向を強めており、直近高値奪回から実質最高値3816円を目指す。

日東紡 (3110)



11月20日に1万6150円の最高値を付けたあとは利益確定売りに値を消し、25日線を割り込む場面も。AIブームを追い風とした高機能ガラスの生産増強も織り込み済で、42万株の買い残も重し。

ユニ・チャーム (8113)



大勢下降トレンドのなか、5日線に上値抑えられ下値模索続く。アジア市場飽和で成長鈍化、日中関係悪化による中国販売への影響から足もとの業績懸念強い。積み上がった信用買い残が重荷で一段安を警戒。



いた百貨店の閉店な
どの話も聞くがこれ
も今回の騒動以前か
ら流れている噂。ネ
ガティブな報道には
過剰に反応せず冷静
になって行動したい。



保有資金の大半をAI・半導体関連株に投資する
ようなものだろう。利益がドンドンあがるときは
良いが、一転してネガティブな材料がでると損失
が大きくなる。ビジネスや株式投資とも常にリス
クを考慮して行動すべきだ。
筆者が事務所を構える本町は難波へ繋がる商店
街があるが、対日圧力が強まる前から中国人観光
客は激減していたと思う。商店経営者と話をする
機会があったが、観光には来ているが、自国の不
景気で買物物は極力しなくなっているそうだ。イ
ンバウンドで潤って

星野三太郎の 株街往来

～今更ながらの中国リスク～

高市発
言を契機に中国が自国
民への渡航自粛を行う
など様々な圧力を行っ
ている。これを受けて
中国航空会社の減便や
団体客のキャンセルが
相次ぎ、ホテルなど観
光業が危機的状況との
ニュースが連日流れて
いるが、特定の国の観
光客に依存し過ぎるの
は、如何なものかと感
ずく。株式投資でいえ
ば、



New product

不二家 プレミアムルック「あまおう苺」
素材にこだわったワンランク上の新商品



不二家（2211）はロングセラーチョコレート「ルック」から素材にこだわったワンランク上の「プレミアムルック」の新商品として、「プレミアムルック（あまおう苺）パウチ」を12月2日から発売した。

ソースとガナッシュに福岡県産「あまおう苺」を使用したジューシーで甘酸っぱい味わいが愉しめる大粒ルックチョコレート。あまおう苺ソースとあまおう苺ガナッシュを苺風味のチョコレートで包み込んだこだわりの3層仕立てで仕上げている。あまおう苺の特徴である「赤い」色合いに仕立てており、チョコレートの表面にハートの柄が入っていればHappy!の仕掛けもある。

月面探査機け運転支援

パナソニックHD

三菱重工と共同開発を開始



実証実験の様子

パナソニックホールディングス（6752）傘下のパナソニックアドバンステクノロジー（6011）と月面探査ローバ向け安全運転支援システムの共同開発を開始した。宇宙航空

研究開発機構「宇宙探査イノベーションシナリオ」の「CG画像と少量データを用いた月面探査ローバ向け運転支援AIの試作」に関する共同研究成果を活かしたもので、LUPEXローバ地上システムへ適用試作し、オペレータの月面環境認識を支援することで、ミッションの妨げとなる危険領域を回避し、安全な運転を支援するシステムの実現を目指す。

LUPEXローバは月面を移動しながら複数の地点を掘削し、どの場所にもどの程度の量のどのような状態の水が存在しているのかを調べる計画。

企業
レター

潮流

高圧経済で高成長へ

政府が主導して将来へ積極投資


 marKet / bAnk

世界の経済政策そのものが転換期を迎えている。政府の関与を最小限に留め、競争促進とグローバル化を目指す市場原理主義が新自由経済だ。これからの高市政権は官民連携の成長投資と需要拡大を目指し、政府が主導して将来への積極投資を行う高圧経済だ。これが経済産業政策の新機軸となる。

緊縮財政から積極財政に転換した。政府が積極介入することで民間投資・イノベーションを促す。需給両サイドからあらゆる政策を総動員する。また、国債は永続的に「借り換え」によって管理されており、国民の税金で返済していない。さらに、日本の財政表示は、世界の先進国と比べて独特な構造を持つ。この構造が国民に誤解を与え、財政政策の柔軟性を阻害している。

米国の連邦予算は「裁量的支出」と「義務的支出」に明確に区分されている。裁量的支出とは年度ごとに議会が裁量で決める支出であり、財源を確保する必要はない。国防費、教育、研究開発、インフラ投資などが含まれる。義務的

世界の経済政策そのものが転換期を迎えている。政府の関与を最小限に留め、

支出とは法律で給付が義務づけられている支出で、社会保障費や医療保険などが該当し、財源の確保が必要となる。

一方で日本の一般会計は、裁量的支出と義務的支出を区別せずにまとめて表示させている。

その結果、政府支出全体が過大に見える構造になっている。日本では、国債の利払い費や償還費が一般会計の支出として計上されているが、多くは日本銀行などを通じて国庫に戻ることになる。つまり、実際にはない資金も「支出」として、全体に対して24%分が国債費用として表示されるため、財政状況が過度に厳しく見えるようになっている。

一般会計の支出を膨らませることで、国民に増税を受け入れさせやすくしているのだろう。日本の一般会計を米国型に合わせ、裁量的支出は財源不要として別表示し、義務的支出はネット利払いで計上とすべきだ。この方法であれば、技術投資や研究開発、インフラ整備などの成長投資の余地が正しく認識され、積極財政の正当性を社会的に納得させることが可能になる。

潮流銘柄はファナック（6954）、安川電機（6506）、住友重機械工業（6302）。

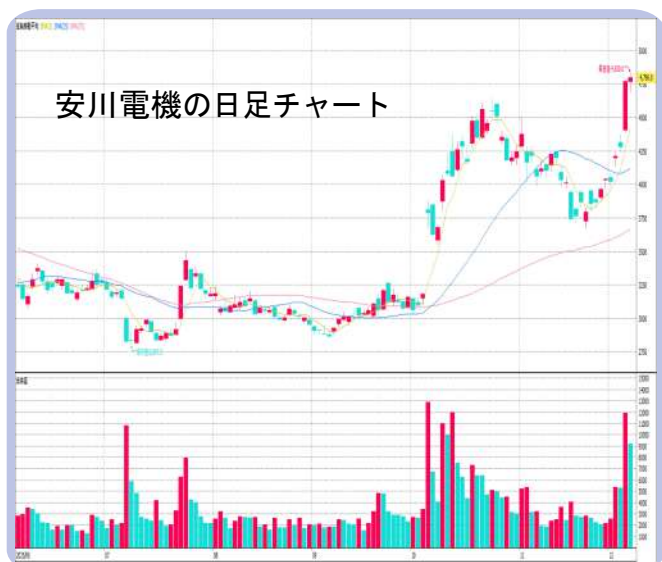
執行活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービス

にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2024年3月の夕刊フジ主催の「株・1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービス



岡山 憲史氏（株式会社マケットバンク代表取締役）のプロフィール
1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

裁量的支出で柔軟性を



敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプ
ロフィール
証券アナリス
トから証券会社

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

約237円高となり、2週連続週足陽線となった。日経平均は一服感があるが、4日にはTOPIXが史上最高値を更新するなど資金の流入は続いている。

8兆円とも言われる中



FOMCの次は日銀会合

間配当金の再分配が相場を支えていたようだ。高市政権の積極財政政策により国債増発で長期金利の上昇が続いているが、今のところ株価には大きく影響していないようだ。

市場の関心は今週の米FOMCの結果であろう。今回は0・25%の利下げが見込まれ市場も織り込んでいると思わ

TOPIXの日足チャート



にニールを絡めての踏み上げ相場が多かったが、今週もTOPIXに出遅れた日経平均に巻き返す動きがある可能性がある、

翌週には日銀の政策決定会合が控えるが、こちらでも市場は0・25%の利上げを織り込んで動いているが、その後も投資意欲が衰えないか見極めたい。

今週は今年最後のメジャーSQ週である。今年はSQ週

れるが、出尽くし感が出る可能性も高く注意が必要である。また、トランプ氏が次期議長にハセツト氏を指名したことで来年5月まで追加利下げを止める可能性もあり、パウエル議長の発言にも注目が集まろう。

日経225先物日足チャート



ボラテイリテイの高い週となろう。

チャートでは5日移動平均線（4万9998円処）、25日移動平均線（5万229円処）を上回って引けておりボリンジャーバンドの△2σ（5万1600円処）を目指す展開も期待出来よう。一方下値は11月19日の安値（4万8235円30銭）から切りあがる右肩上がりの下値トレンドライン（4万9700円処）が強いサポート線になると思われる。

今週は4万9700円〜5万1600円のレンジを想定する。（ハチロク）

今年最後のメ
ジャーSQ週

今回もコール絡め踏上げ？

先週の日経平均は前週末比約237円高となり、2週連続週足陽線となった。日経平

記者の視点

編集後記

marketpress